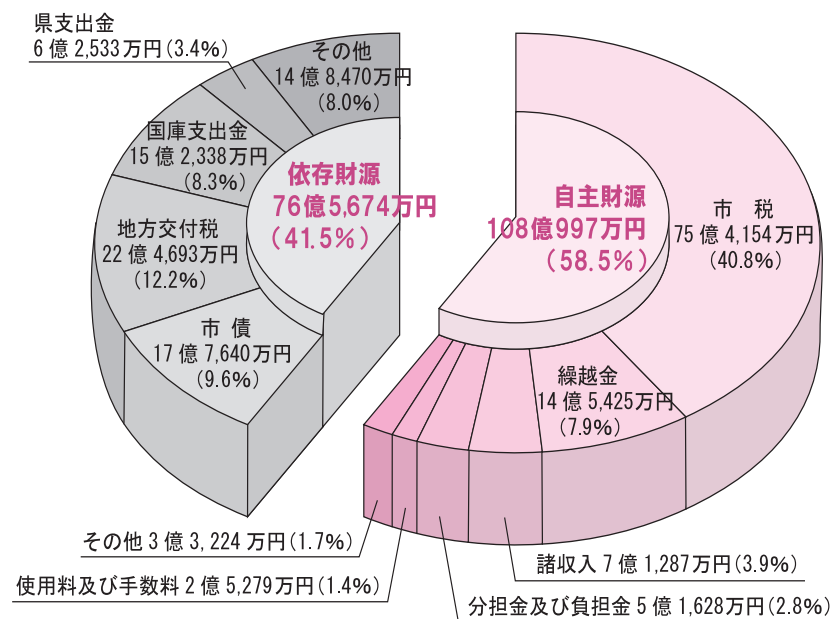


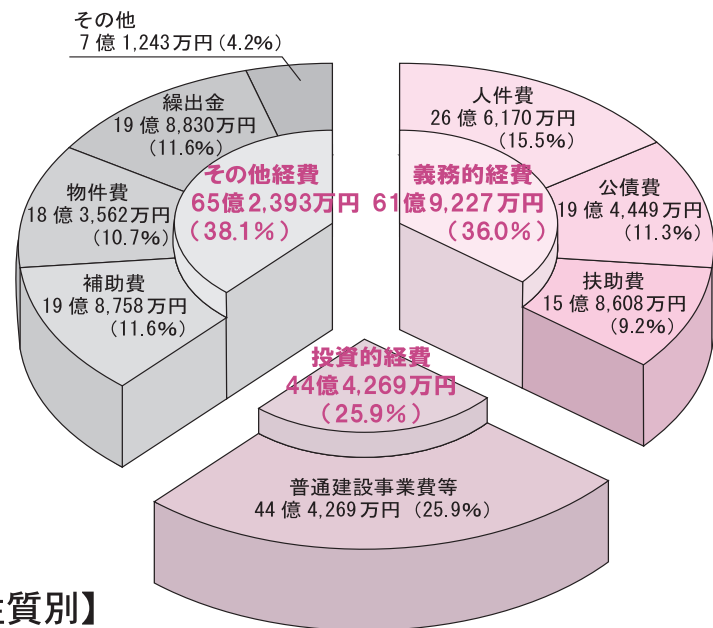
用語解説

- 市税
市民の皆さんから納めていただく市民税
や固定資産税など
- 繰越金
前年度から繰り越されたお金
- 諸収入
預金利子やその他の収入
- 分担金及び負担金
福祉事業や土木事業などに対する負担金
- 使用料及び手数料
公民館や市営住宅などの使用料や住民票
などの発行手数料
- 市債
市が資金調達のため負担する債務
- 地方交付税
国税の定率分を、市の財政状況に応じた
一定の基準により、国が交付するお金
- 国庫・県支出金
国・県の施策に沿った特定の事業を行う場
合などの財源として交付されるお金

歳入総額 184 億 6,671 万円



歳出総額 171 億 5,889 万円



用語解説

- 人件費
職員、議員などに支払われる給与や報酬
など
- 公債費
主に事業を行うために借り入れたお金の
元利償還金
- 扶助費
児童や老人などの生活支援、生活保護な
どに使われる費用
- 普通建設事業費
道路や学校など、公共・公用施設の建設や
整備にかかる費用
- 補助費
一部事務組合負担金や事業等への助成、
火災保険などの費用
- 物件費
旅費や交際費、需用費、備品購入費など
- 繰出金
一般会計から介護保険会計等の特別会計
へ支出される経費

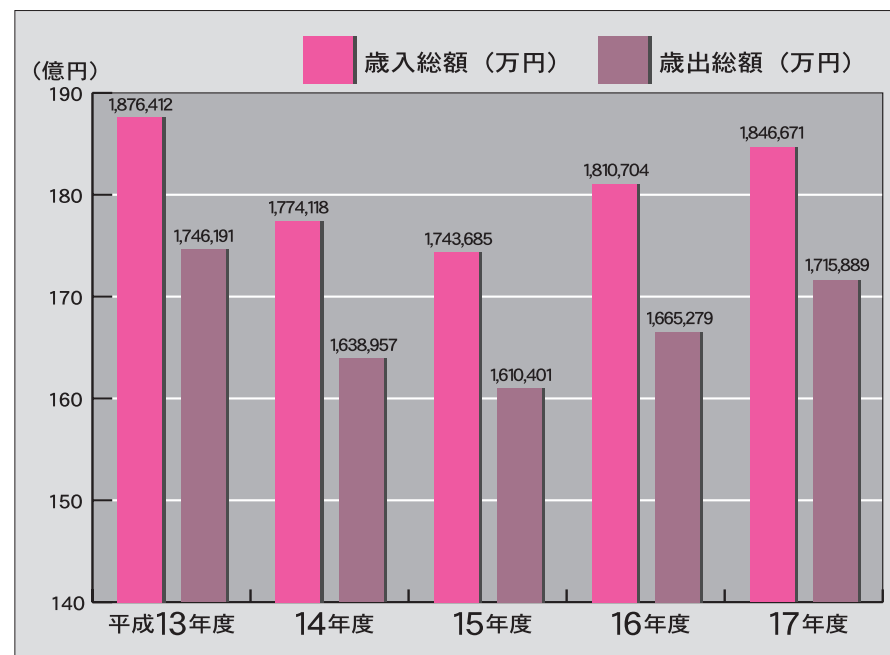
【性質別】

歳出は、性質別分類で見ると、普通建設事業費で中山道会館建設事業や古井小北地区および薬師下諏訪地区の土地区画整理事業等を含むまちづくり交付金事業が6億6、244万円の増となり、全体で1億3、405万円（対前年度比1.3%）の増額となりました。また公債費は、16年度NTT無利子貸付金償還金1億2、579万円と平成7・8年度借換分償還金7億90万円を除くと、2、481万円（対前年度比1.4%）の減額となりました。

歳出の概要

付金事業で1億2、590万円、石綿対策事業で7、160万円、ふるさと農道緊急整備事業で3、580万円の増となったものの、借換債を含めた減税補てん債が7億6、160万円の減、臨時財政対策債が1億6、990万円の減、小学校校舎増築事業が1億3、800万円の減となり、全体で8億5、150万円（対前年度比△32.4%）の大幅な減額となりました。

決算額の推移



決算の概要

国が、国と地方の税配分を見直す「三位一体改革」を進める中で、地方においては、さらなる行財政改革に取り組み、財政体質の健全化に努めつつ地方の創造性・自立性を高め、積極的な施策を展開することが必要となつていきます。そのようなかで、市では経常経費の削減に結びつく行財政改革の一環として、職員の調整手当を平成17年度で廃止して給与関係経費を抑制するとともに、行政の責任分野や経費負担の在り方等の検討を行い、各種団体への運営費補助金を一律20%削減しました。

また、歳入では、交付税措置のある有利な地方債やまちづくり交付金等を有効に活用して、第四次総合計画の積極的な推進に努めてきました。平成17年度一般会計決算額は、歳入が184億6、671万円、歳出が171億5、889万円で、前年度に比べ歳入で3億5、967万円（対前年度比2.0%）の増、歳出で5億611万円（対前年度比3.0%）の増となっています。

歳入の概要

歳入は、市税のうち法人市民税が6、397万円（対前年度比△5.9%）の減となったものの、固定資産税が1億2、263万円（対前年度比3.4%）の増、個人市民税が1億945万円（対前年度比6.5%）の増となり、市税全体では1億9、188万円の増額となりました。国庫支出金では、三位一体改革による老人保護措置費負担金等が削減された影響があるものの、まちづくり交付金が3億6、170万円の増となり、全体で5、450万円（対前年度比3.7%）の増額となりました。地方債では、まちづくり交

わがまちの
お金の使い道

平成17年度的美濃加茂市一般会計と特別会計の決算が、昨年12月に開催された平成18年市議会第4回定例会で承認されました。今回は、市が昨年度どのような事業にお金を使ったのか、一般会計を中心にその概要をお知らせします。